

## 平成23年8月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売 上 高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売 上 高	前年同月比(前月)
総 額	48,884,481 万円	100.0%	100.1% (103.8%)	46,915,400 万円	98.0% (101.7%)
食 料 品	40,786,447 万円	83.4% (82.2%)	100.5% (103.9%)	39,035,718 万円	98.0% (101.5%)
農 産	5,971,505 万円	12.2% (11.7%)	98.7% (103.6%)	5,752,327 万円	96.5% (101.3%)
水 産	3,957,944 万円	8.1% ( 8.2%)	99.5% (100.8%)	3,806,107 万円	97.8% ( 98.5%)
畜 産	4,349,825 万円	8.9% ( 8.8%)	100.4% (103.2%)	4,174,530 万円	97.7% (100.8%)
惣 菜	4,557,506 万円	9.3% ( 8.7%)	103.0% (106.0%)	4,365,449 万円	100.1% (103.3%)
日配食品	9,177,285 万円	18.8% (18.9%)	100.8% (104.7%)	8,820,885 万円	98.0% (102.1%)
加工食品	12,772,382 万円	26.1% (25.9%)	100.8% (104.2%)	12,116,420 万円	98.1% (101.8%)
生活関連	3,555,434 万円	7.3% ( 7.6%)	99.0% (104.8%)	3,418,477 万円	97.8% (103.5%)
衣 料 品	1,575,639 万円	3.2% ( 4.1%)	94.6% (101.8%)	1,558,515 万円	95.4% (102.5%)
そ の 他	2,966,961 万円	6.1% ( 6.1%)	98.2% (101.5%)	2,902,690 万円	99.4% (102.4%)

### ② 数 値

全店総売上高	48,884,481 万円	店 舗 数	4,114 店舗
総売場面積	7,817,036.3 m <sup>2</sup>	総従業員数	226,441 人

店舗平均月商	11,882.5 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,801 円 (98.5%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.3 万円 (6.2 万円)	平均店舗面積	1,900.1 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.7 万円 (20.4 万円)	パート比率(前月)	76.7% (76.5%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・ 上旬は天候も安定して好調であったが、中旬以降、大型台風等の影響で天候不順となり盛夏涼味商材を中心に低迷した
- ・ 震災による節電対応で、大企業を中心に週末出勤の影響もあり、例年より分散したお盆商戦であった
- ・ 昨年ほどの猛暑とならなかったこと、自動車関連企業の土日稼働の影響、牛肉のセシウム汚染問題、日曜日1日少ない等により、売上は7月に比べ厳しい結果となった

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・ 先月までの果実相場高から一転して、野菜、果実共に相場安となり、売上は前年を下回る結果となった
- ・ 台風6号による低温の影響で主力品のスイカや桃、出荷が遅れた梨が大幅な昨比割れであった
- ・ 野菜は、全般に相場安の影響を受け、特に玉ねぎ、レタスが大きく前年割れしている。また、相場高の枝豆や低温の影響を受けて需要減のトウモロコシ、主力品のキャベツ等も苦戦した

### ○ 水産

- ・ 生サンマは、昨年の不漁に比べて大型サイズ中心に入荷があり大きく売上を伸ばした
- ・ 生鮭は、震災の影響による養殖銀鮭の変わりにトラウトサーモンを販売するが、売価高騰の為不振だった
- ・ 海藻類・シラスは震災以降不振が続き、中旬以降アジ、サバ開きなどの干物が好調だった

### ○ 畜産

- ・ セシウム問題により、7月同様に牛肉の不振が改善されず、豚・鶏・加工肉が伸長した
- ・ 牛肉は、昨年宮崎県の口蹄疫問題、本年はセシウム問題と2年続けての落ち込みとなった
- ・ 豚肉は、牛肉から豚肉へ需要の増加で相場高に推移したが、国産から輸入品へのシフトで豚肉の売上を確保した

### ○ 惣菜

- ・ 先月同様に、節電によるサマータイムの導入で帰宅時間の早まりと家庭内調理の減少により、天ぷら、揚げ物を中心に好調だった
- ・ 中旬以降の気温低下により、煮魚、茶碗蒸し、和え物等の動きが好調だった
- ・ 家庭内調理の減少と関連して、中華及びその関連メニュー（スタミナメニュー）が好調だった

○ 日配・加工食品

- ・ 昨年より気温が低い日が続き、豆腐・ところてん・冷麺・チルドは前年を割り、逆にパン・乳製品・うどん・練物は好調だった
- ・ 飲料、ビール、乾麺、つゆ、麦茶などの盛夏商材は苦戦した。特にスポーツ飲料、炭酸飲料の低下が顕著だった
- ・ 先月同様、節電による帰宅時間が早まり、内食化傾向需要も上昇し、料理の素材系商品の動きが良かったが盛夏商材、涼味商材をカバーするに至らなかった
- ・ 今年度米のセシウム問題から、米の早期買いが顕著となり、店舗においては品切れ、品薄状態となった
- ・ たばこの供給が安定したことで売上が好調だった

○ 「お盆商戦」について

- ・ お盆のオーダブル、生寿司に関しては、ほぼ昨年並みに推移したが、天候の影響もあるがお盆明けから不振となった
- ・ お盆期間中の曜日廻りや高速道路1000円、無料化実証実験中止、休日分散型等のマイナス要因として懸念されたが、際商品の動きは良かった

○ 「サマーギフト」について

- ・ 8月は帰省や持ち帰り需要が高く、震災の影響が懸念されたが、例年以上に絆の大切さから持ち帰りギフトが好調だった
- ・ 牛肉のセシウム問題から生食ギフト、焼肉チェーンの食中毒問題でローストビーフは苦戦したが、加工肉ギフトは前年並みだった

○ 「節電対応・牛肉セシウム問題」について

- ・ 8月終了時でほぼ15%以上の節電効果となり、取組みの成果を十分に達成出来た
- ・ お客様からの問い合わせは減少しているが、お客さまの不安が解消されていないことから、HP、店内表示等の情報開示や国産牛の検査等を実施して安全・安心をアピールした

以上